



ADRC Highlights

Asian Disaster Reduction Center Monthly News

Vol. 249
December
2013

トピックス

国際会議への参加

㊦ 国連アジア太平洋
経済社会委員会
(UNESCAP)「災害リス
ク軽減委員会」第3回
会合に出席

㊦ 第1回センチネル
アジア ジョイントプ
ロジェクトチーム ス
テップ-3 会合

㊦ 台風委員会第8回
統合ワークショップへ
の参加

Asian Disaster Reduction Center アジア防災センター

〒651-0073
神戸市中央区脇浜海岸通
1-5-2 東館5F

Tel: 078-262-5540
Fax: 078-262-5546
editor@adrc.asia
http://www.adrc.asia

© ADRC 2013

●国際会議への参加

国連アジア太平洋経済社会委員会(UNESCAP)「災害リスク軽減委員会」 第3回会合に出席

2013年11月27日から29日ま
で、国連アジア太平洋経済社会
委員会(UNESCAP)の主催によ
り、タイ・バンコクの国連会議
センターで「災害リスク軽減委
員会」第3回会合が開催されま
した。当日はESCAP加盟国や国
際・国連機関から防災行政の実
務関係者や専門家など多数の出
席があり、アジア防災センター
(ADRC)研究部ならびに国際復興
支援プラットフォーム(IRP)事務局の河内が参加しました。



まず、全体会合初日の議題4「開発戦略への防災の主流化」の中で発言を
行い、近年のアジア地域での大規模災害発生以降の復旧・復興段階におい
て、日本の台風などの風水害や地震津波防災に関する技術、経験、教訓が
活用されていることを実感し、前回の国連防災世界会議ならびに2004年
末のスマトラ沖地震・インド洋大津波以降の間のESCAP加盟国各国の防
災体制の強化、防災文化の醸成が進んでいる旨を述べました。ADRC及び
IRPでは、政府職員向けに多種多様な人材育成プログラムを実施しており
ますが、とりわけ、ADRCメンバー国政府職員を客員研究員(VR: Visiting
Researchers)として3カ月もの間に受け入れる制度は、大変有意義なもの
であると元VRが自ら会場内で発言する場面もあり、その他の元VRも各国
の政府防災担当省庁職員として同会合に出席している様子を見ると、
ADRCが十年以上もかけて実施してきた同プログラムの波及効果が高いこ
とが立証されたところです。

また、巨大災害の発生時には、行政の対応に加えて、企業などの公共部
門、地域住民が平時から防災の備えをしておくことの重要性を述べまし
た。そういった意味で、来年2014年3月4～6日に東京で開催予定の「ア
ジア防災会議2014」ならびに同年1月21日の神戸での開催予定の「国際復興
フォーラム2014～災害復興における官民連携～」は、防災に関する様々な
セクターによる協力・連携の必要性・必然性について確認できる会合だと
して紹介し、日本政府が準備している次回開催の国連防災世界会議につな
げたいと発言しました。

ADRC/IRPとしては、ESCAP事務局ならびにESCAP加盟国とともに、
今後とも被災地の復興や地域の防災力強化に向けた支援を続けていきたく
と考えています。

この件についてのお問い合わせは、アジア防災センター河内
(kouchi@recoveryplatform.org)までお願いします。

第1回センチネルアジア ジョイントプロジェクトチーム ステップ-3会合

2013年11月27日から29日にかけて、タイのバンコクにおいて、航空宇宙研究開発機構(JAXA)、アジア工科大学(AIT)の共催により、センチネルアジア*に関係する機関が一堂に会するセンチネルアジア・ジョイントプロジェクトチームの年次会合(JPTM)が開催され、ADRCも参加しました。センチネルアジアがステップ3に移行してから最初のJPTMになります。ADRCは、センチネルアジアにおいて災害発生時の緊急観測を担当していることから、緊急観測の実施状況及び緊急観測データの利用状況調査の結果を報告するとともに、緊急観測後に実施しているアンケート調査の改善提案を行いました。

会議での議論のテーマは、次のとおりです。

- ・状況報告（プロジェクト全体の状況報告、新規メンバー紹介、緊急観測報告、各DPN/DAN**からの報告）
- ・プロジェクト管理（プロジェクト進化の方向性、データ共有・普及、2015年開催予定の国連世界防災会議に向けた取り組み）
- ・予防対策（フィリピンなどにおける成功事例の紹介）
- ・ワーキンググループの活動（洪水、山火事、氷河湖決壊の各WG活動紹介）
- ・応急対応（Facebook、DANの促進、チャーターにおけるプロジェクトマネージャー[PM]の役割、PMトレーニング）
- ・復旧復興（復旧復興フェイズでの成功事例紹介）
- ・衛星の多目的利用（JAXAの提供するWINDS***その他のサービス、準天頂衛星）

* 地球観測衛星など宇宙技術を使って得た災害関連情報をインターネット上で共有する国際プロジェクト。本年から、当該情報を災害直後のみならず予防から復旧段階まで幅広く活用すること等より高度な活動を目指す「ステップ3」を開始している。

** DPN（Data Provider Nodeの略）衛星画像を取得する宇宙機関、DAN（Data Analysis Nodeの略）衛星画像を解析する大学他の研究機関

*** WINDS（きずな）は人工衛星経由の超高速インターネット接続サービスを行う衛星



台風委員会第8回統合ワークショップへの参加

ADRCは、国連アジア太平洋経済社会委員会・世界気象機関台風委員会、マカオ地球物理気象局が主催する台風委員会第8回統合ワークショップ及び第2回研修フォーラムに参加しました。会合には主催者をはじめとして、カンボジア、中国、北朝鮮、香港、日本、ラオス、マレーシア、フィリピン、韓国、ベトナム、タイ、アメリカなどから関係者100名以上が出席し、「熱帯低気圧の影響を緩和するための予報・警報・防災戦略」をメインテーマに各国の取組などについて

続き

て報告、意見交換がなされました。また、防災作業部会におけるメンバーレポートの中では、内閣府より2013年の日本における台風等の被害状況やアジア防災センターの取組（客員研究員の受入等）についても報告されました。

さらに今回は、フィリピンやベトナムの代表者から台風Haiyanによる被害や対応状況について、また、世界気象機関や日本気象庁等からは両国に対する台風情報提供などの支援策についても報告され、今後のメンバー国間の協力強化についても意見交換がなされるなど、非常に有意義なものとなりました。また、その中で、WMOからは今後も同様のリクエストが想定されることから、メンバー国からの緊急リクエストに対するマニュアルの整備や、メンバー国と事務局との緊急連絡網構築の必要性などが訴えられ、検討されることになりました。

なお、台風委員会にはこの防災作業部会の他に気象、水文の各作業部会が設置されており、今回はその3つのワークショップと研修フォーラムが統合して開催されました。会議の詳細につきましては次のウェブサイトをご覧ください（英語のみ）。

http://www.typhooncommittee.org/8IWS_2TRCG/8IWS_2TRCG.html

